



# UNESCO HAMAMATSU

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

# No.166

## 2016.11.25

発行：浜松ユネスコ協会  
 発行人：会長 小島逞壯  
 TEL(053)463-0458  
 FAX(053)463-0458  
 編集(広報委員会)阿部行俊

2016通常総会 会長挨拶から

## 平和への貢献とは 小島 逞壯

今年も4月には激甚災害を引き起こした熊本地震が発生し、さらに10月には鳥取中部地震が発生しました。日本列島は活断層が網の目のように広がり、その上4つのプレートがひしめき合い、いつ地震が起こっても不思議ではない状況にあります。火山噴火も地震に連動されてか、至る所で盛んになってきています。こんな火山列島に生きる私たちには一刻も早く、地震学や火山学の進歩が重要なことであることは言うまでもありません。

今は地震の予知さえできていません。私たちユネスコ協会では、地質学を重視して毎年「天竜川と岩石」に取り組んでいます。まず子どもたちの興味、関心を高めるよう研鑽(けんさん)に励み、次々にやって来る災害に英知や勇気を持って立ち向かっていく子を目指しています。

去る2011年、初めてユネスコ事務局長として日本を公式訪問したイリナ・ボコバ氏の目的は「ユネスコと言えば世界遺産」という日本の認識を変え、災害対応の先進国として日本が国際的な被害軽減を目指し、世界の強力なユネスコのパートナーとなることでした。即ち、日本が災害から世界の人々を救う世界のリーダーになることのできたのです。

2016年の今、日本では世界遺産による観光と駆けつけ警護を伴う憲法改正の波が吹き荒れています。しかし、世界が日本に求めている、本当の平和への貢献とは何であるのか、この指摘をじっくり考える必要があります。黙っているが、若者も子供たちも日本に求めているのです。それは希望と誇りのある国、日本なのです。

第5回ユネスコ科学教室 郷土の自然史 10月15日(土) 天竜川河川敷(西鹿島)

## 天竜川と岩石 ～岩石標本を作ろう～

好天の下、ユネスコ科学教室の生徒が天竜川の川原で熱心に標本づくりに取り組みました。

岩石標本づくりは子供たちにとって完成したときの大きな達成感が得られる大変魅力ある活動です。それは、10種類の岩石を集めるのがそうたやすくはないことにも因ります。





まず、見本から岩石の特徴をつかみ、それを頭に入れ、目を凝らして探します。もちろん「分類する力」と「集中力」のどちらが欠けても探せないのです。特徴をしっかりと捉えさせるよう、スタッフに尋ねる場合も、名前の見当を付けずに質問してはいけないことにしています。

また、講座の初めには、岩石の成り立ちを説明します。2億年前に堆積した生物の遺骸（いがい）がどうして岩石として、現在、鹿島橋の下の川原にあるのか、また、この川は中央アルプスや南アルプスに源を発していることなど、自然のダイナミズムに触れることで探究心や想像力を育てたいと考えています。

この活動で少しでも「きちんと足元を見つめられる人」になることを願ってスタッフ一同協力しながら取り組んでいます。（常任理事 竹内孝夫）

## 「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を訪ねて

自然環境委員会 自主研修会 9月18日（日）

県立「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は、「百年後の静岡が豊かであるために」を掲げ、「環境史」、「地質・岩石・地震」、「生命・昆虫」、「生命・脊椎動物」、「生命・植物」、「生命・化石（古生物）」の6分野を基本に、国際的な視点に立った質の高い調査研究を行っていました。事前に施設を見学した際、「ヒトと環境」をテーマに研究を進めている山田准教授の説明に惹き付けられ、案内役をお願いしました。勿論当日も、山田氏の熱心で軽妙な語り口で、楽しく充実した研修会になりました。こうした自主研修を重ね、自ら追究する姿勢が、浜松ユネスコ



協会の活動を支えていることを改めて知らされました。

展示室は、“考える”きっかけづくりのため説明に曖昧さを残したり、敢えて専門用語を使ったりしていました。そして、来場者は各ブースの担当者と対話をする中で学ぶという対話型展示の手法は、活動の参考になると思いました。

展示室以上に、施設のバックヤードは資料の宝庫でした。佐浜町出土のナウマンゾウの化石（実物）や杉野コレクションをはじめとした植物、昆虫、魚等の多種多様な貴重な標本が所狭しと保管されていました。どの資料室でも感嘆の声が上がりました。また、敷地内の裏山散策コースの再整備や電子顕微鏡等の機器設備の一般開放をしていきたいとのことでした。協会活動での利用はもちろん、連携を一考するのもいいと思いました。（常任理事 石岡琢磨）



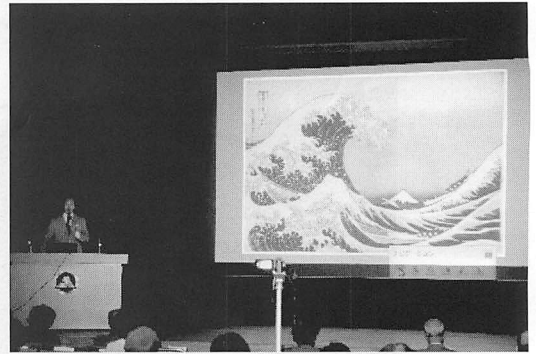
# 2016「中部東ブロック民間ユネスコ活動研究会in忍野」に参加して <大会テーマ> 9月3・4日(土・日) 平和の心を繋ぐ～これからの民間ユネスコ活動が目指すもの～

## <1日目>

- 記念講演：「浮世絵からお江戸にタイムスリップ」  
 講師：牧野健太郎氏（日本ユネスコ協会連盟評議委員、NHKプロモーションプロデューサー）
- 分科会①ESDへの民間ユネスコの役割と関わり方への展望
  - ②民間ユネスコ活動の現状とこれからの展望
  - ③次世代へ…青年ユネスコ活動への展望

## <2日目>

- 日ユ協連、国内委員会の報告
- ①分科会報告 ②実務担当者セミナー



▲左から大石・服部・小島・加藤・岡田・三輪の各役員

近年、民間ユネスコ活動は、全国的に「会員の高齢化」「会員の減少」「活動資金の不足」など、組織的・人的な課題を抱えています。

また、民間ユネスコ運動70周年を迎え、日本ユネスコ連盟は、今後の活動ビジョンを策定しました。これら課題と活動ビジョンについて意見交換を重ねた2日間でした。各ユ協と連盟側とで激しい議論がありました。

活気あるユネスコ協会  
を求めて

○連盟事務局は、各ユ協の主体性を支援する。  
 ○各ユ協は、魅力ある活動を継続的に実践する。

### <ユネスコ運動の今>

- ・国内の教育協力活動(ESD・青少年育成)
- ・国内の文化・自然環境保全活動(未来遺産運動)
- ・海外の教育協力活動(世界寺子屋運動)
- ・海外の文化活動(世界遺産運動)

### <ビジョン>広げよう平和の心

#### <ミッション>

- ・平和な世界の実現
- ・持続可能な社会の実現のための教育の実践

浜松ユネスコ協会のリニューアルしたホームページには、着実に積み上げられた各委員会の活動がまとめられています。これらを継続していくことが、平和な世界の実現を目指し、共に学び、行動する民間ユネスコ運動を推進していくことだと再確認することのできたブロック研究大会でした。

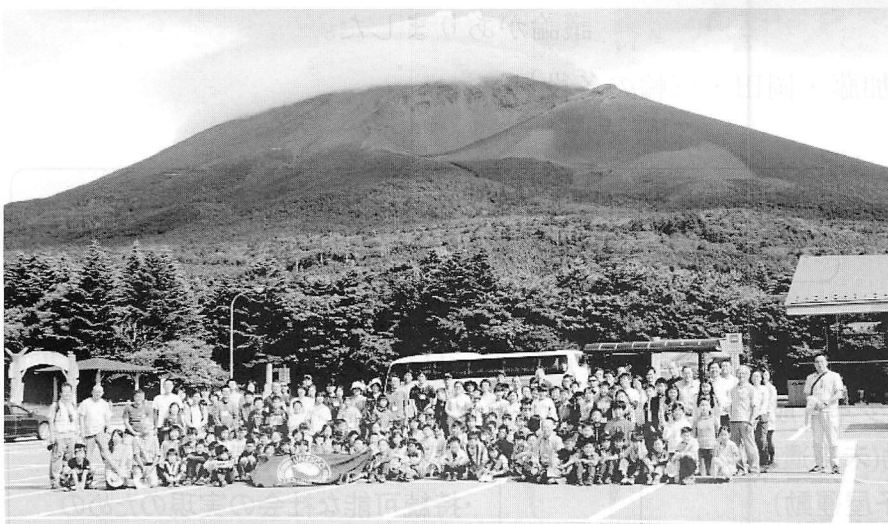
(地域・世界・未来遺産委員長 加藤泰弘)

## 第4回ユネスコ科学教室 富士山の自然 7月2日(土)宝永火口・駒門風穴 新五合目から宝永火口を歩こう



教室生125名、家族113名（子供21名、大人92名）の計219名、バス6台に分乗して富士山へ向かいました。保護者の参加者が多く、富士山への関心の高さを感じます。

車内では富士山の成り立ちや噴火の歴史、富士山の植物などの学習を進めました。富士I.C.を通過すると富士山へ続く坂道が続きます。持参したお菓子の袋など観察し、標高による気圧の変化を実感することができました。



水ヶ塚に着くと大きな富士山が姿を見せてくれました。今年は山頂付近に笠雲がかかっていた。笠雲を初めて見た子供たちは、不思議そうに見つめていました。

新五合目から、オンダテやフジハタザオなどの植物、割れ目噴火や土砂崩れ（雪代）の跡などを観察しながら宝永火口に向かいました。

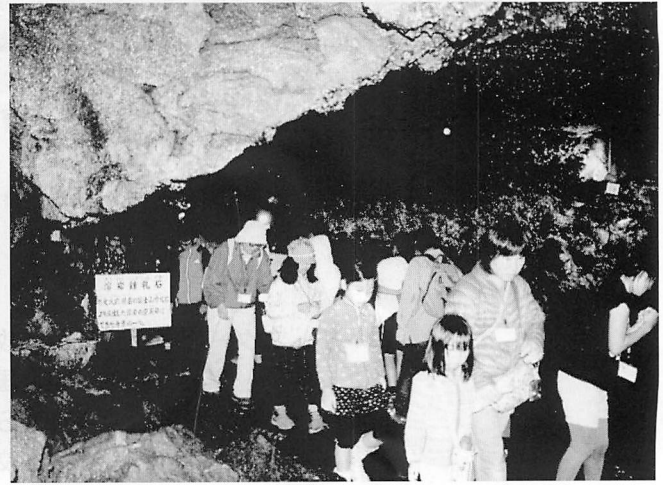
自然の厳しさに耐えて生育する植物の生命力、土砂崩れを起こしながらも美しい円錐形を保つ富士山の奇跡についても考えることができました。

いよいよ宝永火口です。自分の前に広がる巨大な火口に圧倒される子供たち。その雄大さと自然の力の大きさをじっくりと感じ取っているようでした。火口では水の沸騰実験、スコリアや岩石の観察を行いました。今年は、駒門風穴で溶岩流や風穴の成り立ちについても学習しました。子供たちは風穴内の涼しさに驚き、同時に楽しんでいるようでした。

〈広報委員長 阿部行俊〉



＜宝永火口に向かう＞



＜駒門風穴の中で＞

## 参加者の感想

いざ登ってみるとびっくりしました。そうだいに広がった林、色や形の違う石、見下ろせば雲のじゅうたん。そんな富士山の中で、一番すごいなと思ったのは「かさ雲」です。富士山に「かさ雲」がかかっている景色を見ただけでうれしくなりました。また、空気がうすくなる実験をポテトチップスでやりました。水がふっとうしやすい実験もやりました。とても分かりやすかったです。（中略）

＜和地小：伊達大翔＞

宝永火口から見る富士山の自然は雄大で声が出ませんでした。特に火口がものすごく大きくて「こんなのがふん火したらどうなるんだろう。」と想像してしまいました。駒門風穴の中は、照明がなければ真っ暗でした。波のように地面がでこぼこしていました。風穴から出て外の空気に触れると暑く感じました。メガネがくもってしまい、なかなか元にもどりませんでした。（中略）

＜曳馬小：長倉蒼大＞

水のほとんどない環境にもかかわらず力一杯生きている高山植物のたくましさ、美しさにしばらく見とれてしまいました。暮らしやすいように、楽ができるように生活を求めている自分に、背の低い地をはうようにふんばっている花たちが、「自分が回りに合わせて変わることも大切だよ。」と教えてくれたようでした。見上げれば宝永山の勇ましい姿があり、畏れを感じつつも富士山に登っている喜びを味わいました。（中略）

＜船越小：保護者＞

刻々と変化する山の天候も、短時間で良く分かりました。最初に見上げた笠雲をかぶった富士山は感動的で、眼下に雲海が広がっている様子も素晴らしかったですが、最後は雲の中の真っ白な世界というのも面白かったです。もともと、石の収集が好きな息子は、普段あまり見ない火山岩に興味津々でとても楽しそうでした。（中略）

＜鴨江小：保護者＞



貴重な自然を  
次の世代に残しましょう。

山本和子

印刷のエキスパート  
**株式会社開明堂**

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778

## 沖縄人とアメリカンインディアンが共有する悲劇

～ 外来勢力による征服によって持ち込まれた生活習慣病 ～

ローチェスター大学内科学名誉教授（心臓学）

浜松ユネスコ協会国際名誉顧問

浜松市やらまいか大使

リノ交響楽団理事 秋山 俊雄 氏



このように20世紀初頭以来インディアンの生活習慣が急激に変化するに従い、彼等の肥満率と糖尿病率（2型糖尿病）が上昇し始めた。まず、インディアンとアラスカ原住民の炭水化物の摂取量は、アメリカ合衆国のほかの人種と比べて高いことが確認された。国立疾患予防研究所（CDC）から公表された1997年の人種別データによると、インディアンとアラスカ原住民の肥満率は30.1%であり、それは白人の15.6%、黒人の26.4%、ヒスパニック系人の18.2%の何れよりも高率であった。この肥満症が主な引き金となって、インディアンとアラスカ原住民、黒人の糖尿病率（2型糖尿病）は7.6%でありそれは、白人の4.4%、ヒスパニック系人の5.5%よりも遙かに高率であった。そのうえ、インディアンとアラスカ原住民のアルコール過飲症（binge drinking）の率は18.9%であり、黒人の8.7%、白人の14.3%、ヒスパニック系人の16.2%の何れよりも高率であった。同様な違いは喫煙率においても認められた。その反面、高血圧症の頻度はインディアンとアラスカ原住民のほうが他の人種よりも僅かながら低率であった。

更に、1988年から11年間に亘って実施された中高年のインディアン（45歳から74歳）の追跡研究のデータによると、糖尿病率はこの短い期間でも確実に上昇していた。この期間中に、糖尿病率は中高年の男性で41.4%から47.4%に上昇しており、中高年の女性では48.4%から55.8%に上昇した。この期間中に、高血圧率も男女何れでも上昇した。だが、幸いにもこの期間中に改善される傾向が認められた危険因子も存在した；LDLコレステロールは上昇する傾向はなくHDLコレステロールは上昇する傾向が認められ喫煙率は減少した（男性で40.0%から33.4%、女性で27.7%から21.3%）。

アメリカ合衆国の他の人種の人達のように、インディアンでも死亡疾患順位の最高位を占めているのは心血管疾患（心筋梗塞や脳卒中）である。2001年の中高年のアメリカ合衆国人の心血管疾患による一年死亡率を年齢別そして人種別に比べてみると、35歳から64歳の年齢範囲では、何れの人種でも加齢するにつれて心血管疾患による死亡率は確実に上昇した。しかしながら、いずれの年齢区分でも心血管疾患による死亡率は、他の人種と比べてインディアンで最高率であった。例えば、55歳から64歳までの年齢区分ではインディアンの心血管疾患による一年死亡率は17.3%という高率であり、黒人の11.6%、ヒスパニック系人の14.6%、白人の8.1%よりも有意に高かった。このように、インディアンの心血管疾患による死亡率がアメリカの他の人種よりも高率であるのは、主に肥満症と糖尿病の頻度が高率である為である。コロンブス以前の時代では、肥満症、糖尿病、高血圧症、心血管疾患の頻度はインディアンでは非常に低かったと筆者は推定する。

インディアンの間では上述のように複数の危険因子が原因となり生活習慣病の頻度が増しておりその為にアメリカの人種別寿命表では、インディアンの平均寿命は他の人種にくらべて最も短くなっている。例えば、1999年から2001年のデータによると、アメリカ人の平均寿命は76.9年であったが、インディアンの平均寿命は72.3年と顕著に短かった。更にインディアンの年ごとの平均寿命の延長は米国の他の人種よりも小さくなっている。

## 4. 沖縄人の場合

### (a) 外来勢力による琉球支配

沖縄は地理的に、日本、中国、韓国、東南アジア諸国に囲まれている為に、それらの諸国の交易の中継地としてにぎわって来た。中国大陸の周辺に多くの国の国主は、中国の皇帝に朝貢して恭順の意を表すことにより、皇帝から「汝を封じて国王とするという冊封(さくほう)を授けられた。この冊封制度をとって中国は多くの近隣諸国の宗主国として君臨した。中国大陸で明王朝が興った1368年当時、沖縄本島では山北、中山(ちゅうざん)、山南を支配する3人の按司(あんじ)が勢力を争っていたのでこの時代は三山時代と呼ばれる。三山の中で明国から最初に冊封を受けた中山の察度(さつと)が1372年に沖縄本島の最大勢力として台頭した。察度が冊封を受けた時に琉球という国名は明国から授けられたものであり、それ以来明治初期まで琉球の公式文書では中国の元号が用いられてきた。沖縄諸島は1429年に中山王武寧(ぶねい)の下で統一され琉球王国が誕生した。三代の尚真王(しょうしんおう)は1477年から50年間に亘る在位中に、国家経営に優れた手腕を発揮し沖縄は貿易の中継地として潤ったので、この時代は琉球の黄金時代と呼ばれる。

ところが徳川家康の時代に琉球の黄金時代に終止符が打たれた。当時の日本の権力者は何れも、琉球王国が対明貿易で挙げていた巨大な利潤の収奪を企んでいた。日本本土を統一した直後の徳川幕府は1603年に、秀吉の朝鮮出兵によってこじれていた中国との外交修復と日明貿易の仲介を琉球王府に依頼したが、意外にもその依頼は躊躇することなく断られた。この依頼拒否を「甚だ無礼である」と見做した徳川幕府の指令の下に、1609年に沖縄本島に派遣された3000余名の薩摩藩士は沖縄本島を容易に制圧した。1611年には、奄美諸島は琉球王国から割譲され薩摩藩の領土として組み入れられ、更に幕藩体制が琉球に導入された。だが明治初年までの長きに亘り、薩摩藩は琉球が明国から冊封を受け交易を続けることを黙認した。その理由は、薩摩藩が琉球の実権を掌握している限り対明貿易からあがる利潤の多くが薩摩藩に収められた為であった。因みに、薩摩藩は徳川時代末期に諸藩のなかで最も強大な近代兵力を築き上げ戊辰戦争の勝利に大きく貢献したが、それを可能にしたのは主にこの対明貿易から挙げられた巨大な利潤であった。

明治維新直後も、琉球諸島の施政は依然として中山王府に委任されていた。中山王府は清国との冊封関係の継続を欲していたが1875年に明治政府の圧力の下に冊封関係が絶たれ、さらに首里城が明治政府軍に明け渡された。中山王府は遂に滅亡し琉球藩は沖縄県と改名された。この一連の処置は琉球処分と呼ばれている。琉球が日本領土であることが国際的に認められたのは日清戦争の終結時(1895年)であった。琉球処分以降、明治政府の沖縄県に対する監督は一層厳しくなり本土人の沖縄人に対する差別も強まった。沖縄県の主要な役職は、それは沖縄県令(沖縄県知事)を含めるが、総て鹿児島人で固められ、商工業の面でも鹿児島人が独占的権益を握るようになり、農村の疲弊は改善されることはなく、沖縄県は収める国税に比して沖縄県に還元される国費が少ないという差別も受けていた。沖縄は1600年代初頭以来3世紀半に亘って本土の行政府と民間の双方から過酷な仕打ちを受けてきたが、その過去とは比べようもない程の悲劇が太平洋戦争の末期に沖縄を襲った。

まず、1944年10月10日に米軍のB-29大編隊によって繰り返された空襲(十・十空襲)で300年以上にわたって築かれてきた那覇市街、それには現在世界遺産に指定されている首里城も含まれていたが、その約90%が灰塵に帰した。その数か月後の1945年3月末からの3か月間に亘って戦われた地上戦で

榎

にれとうほう  
榎陶房  
浜松市南区瓜内町860-1  
TEL 080-3069-0240

内科・消化器科

西脇医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

は、沖縄諸島の殆どは瓦礫の山と化した。当時の沖縄県の人口は約60万人であったが、沖縄戦でそのうちの12万人以上の沖縄県民が死亡したと推定されている(死亡率20%以上)。太平洋戦争は間もなく終結したが、戦争終結で沖縄県人の悲劇の幕が下されたのではなかった。

沖縄戦以後、奄美大島を含めた沖縄諸島はニミツ布告に従ってアメリカの軍政下におかれた。終戦後急速に発生した東西冷戦に対処する為に、沖縄諸島では日本の旧軍事施設はアメリカ軍基地として改造されしかも沖縄の集落や農地の多くが強制的に接収されアメリカ軍基地が拡大された。また1952年に連合国と日本の間で調印されたサンフランシスコ平和条約では、沖縄に対する日本の潜在的な主権は認められたものの、沖縄は日本本土とは切り離されてアメリカの信託統治領としてアメリカ軍の管理下に置かれることが合意された。同時にサンフランシスコで締結された日米安全保障条約で、沖縄諸島におけるアメリカ軍の行政的な立場が強化された。その後、沖縄人の間で日本への復帰運動が着実に広がり、1970年に佐藤総理大臣とニクソン大統領の間でまず日米安全保障条約の延長が調印され、1972年に遂に沖縄返還が実現された。

沖縄のアメリカ軍基地はアメリカが外国に設置したアメリカ軍基地の中で最大な規模となり、アメリカが介入した朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争の何れでも要な前線基地として使用された。朝鮮戦争やベトナム戦争当時の沖縄諸島の人口は約90万人であったが、その当時沖縄諸島にはどれ程の数の米軍兵士とその家族が駐留していたのだろうか。以下に、公表されているデータを基にして筆者が推定した数を示す。朝鮮戦争時には、沖縄諸島に米軍兵士と家族を含めて少なくとも約32人が駐留していたと推定され、それは沖縄人口の約36%に相当した。ベトナム戦争のピーク時には、沖縄諸島に少なくとも約52万人の米軍兵士と家族が駐留しており、それは沖縄人口の約58%に相当した。朝鮮戦争やベトナム戦争が勃発していなかった時代でも、沖縄諸島に駐留していた米軍兵士とその家族の数は約10万人程であったようだ。その上、朝鮮戦争とベトナム戦争時には推定3万人以上の沖縄県民が米軍基地で雇用されていた。

比較的小さな人口と面積の沖縄諸島が既に3/4世紀に亘ってアメリカの文化と生活習慣によって覆い包まれてきたことに影響されて、沖縄県民の生活習慣と健康状態がどの様に变化したかについて以下に考察を進める。  
 <以下、次号167号へ>

★お知らせ★

★地域・世界・未来遺産委員会 「私のまちのたからもの」展

作品展示…平成29年1月11日(水)～1月23日(月) 遠鉄百貨店6Fギャラリーロゼ  
 表彰式……平成29年1月15日(日) 午後1時半 遠鉄百貨店8Fえんてつホール

★新春のつどい 平成29年1月28日(土) コンコルド浜松

- ・山本自然科学賞表彰式…午後3時30分 3F「葵の間」
- ・懇親会……………午後5時30分 18F「エトワール」

★浜松ユネスコ協会 <http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>

あなたも一緒に  
**会員募集**  
 問い合わせ・申し込み  
 事務局 三輪 宜弘  
 ■ 053-425-8643

会員動向 会員数 (16.11.8現在)

賛助	法人	維持	理事
30	1	6	45
普通	学生	合	計
45	0	127	